

## インターバンクの声（2015年11月4日）

11月に入って2日目、東京市場は早速「文化の日」の祝日で休場となり、豪中央銀行（RBA）理事会結果を受けて豪ドルが大きく反応したことを除けば、アジア時間内でのドル円やユーロに大きな変化は見られなかった。ところがロンドン勢が参入し始める頃になるとユーロが俄に下落し始めた。昨日、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁の講演が予定されており、12月の理事会で同氏が追加金融緩和について具体的な姿勢を示してくるのではとの観測によるものだったようだ。ただユーロは総裁の講演前後に昨日のユーロ安値圏に到達してしまい、講演で総裁が金融政策の緩和度合い見直しに言及した後のユーロにそれ以上の下落はなかった。欧州時間のユーロ下落に続いて、今度はドル円がニューヨーク市場が始まる頃になってドル買いに動き始めた。もっともドル買いと言っても、高々120円80銭あたりから121円20銭台までの動きだが、121円00銭をあっさり抜けたのは予想外だった。こちらは、米連邦準備理事会（FRB）が12月に利上げする可能性が再び上昇していることへの警戒感によって米国債利回りが上昇していたことなどが背景になっていた。FRBの利上げの見通しがより鮮明になるかどうか、やはり今日のFRB議長、副議長の講演と金曜日の雇用統計が気になるところだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。